



京都医療生協

第212号 2024年(令和6年)7月15日
発行所/京都医療生活協同組合
京都市中京区聚楽廻東町2番地
視力センタービル地階
☎075(822)2286 FAX075(822)6133
発行責任者/宮本 和明

Table with 4 columns: Year (2012, 2017, 2022), and rows for Elementary, Middle, and High School students showing nearsightedness rates.

(上) 学校保健統計の調査結果「裸眼視力1.0未満の者」から。視力1.0未満率
(下) 同調査結果「オルソケラトロジーの装用」から。装用率(2022年度)

Table with 4 columns: Age/Gender (Elementary 1st/5th, Middle 3rd, Male/Female) and rows for nearsightedness rates.

小学生や中学生に近視が急増 「対応検討したい」

学校保健統計の調査で児童や生徒の近視が急増していることが報告されています。

京都医療生協通常総代会で、清水泰治専務理事が2024年度事業計画において「近視を抑制するキャンペーンや斜視弱視検査に対応する体制を作り、広報について検討します」と報告しました。

また、近視を矯正するオルソケラトロジーの装用率も同調査で発表されています。近視の増加に比して普及は進んでいません。宮本和明理事長は昨年4月のこの機関紙の「スマホを適切に使う」という記事の中で健康被害を避けるために「20-20-20-20」(20分ごとに20秒以上20フィート離れた遠くを見る。さらに20回連続まばたきをする)ルールを呼びかけています。近視抑制にも通じる健康活動です。

8月15日(木) 16日(金)

休診させていただきます ナカノ眼科 京都コンタクトレンズ

京都医療生活協同組合 第77回通常総代会 書面含め87人出席 4議案採択

京都医療生活協同組合は6月15日、京都市中京区のホテルオークラ京都で第77回通常総代会を総代本人出席25人、書面出席62人、合計87人の出席で開催しました。

総代会は宮本和明理事長の挨拶(大要は別掲)の後、第1号議案(2023年度事業報告・決算、監査報告)を川久保雄二郎常務理事と安部敏弘監事が、第2号議案(2024年度事業計画・予算)を清水泰治専務理事が、第3号議案(役員報酬)を松本忠之常任理事、第4号議案(役員選任)を須賀修司常任理事が、それぞれ提案しました。

議案は採決され、第1号議案は反対0人・保留2人・賛成84人、第2号議案は反対0人・保留2人・賛成84人、第3号議案は反対1人・保留1人・賛成84人、第4号議案は反対0人・保留2人・賛成84人。賛成多数で採択されました。

司会は須賀常任理事、議長は上木紀介総代。(2面に関連記事)

宮本理事長挨拶

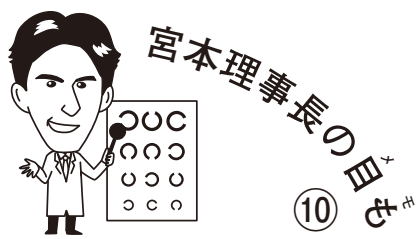
最適な医療を届けたい

昨年度は2つの大きな治療を導入しました。1つ目は多焦点眼内レンズ。眼鏡やコンタクトレンズを使わずに生活できるようになることが期待できますが、メリット、デメリットがあります。2つ目は、日帰り硝子体手術。通常は入院で対応することが多い治療法ですが、最新機器の導入で日帰り対応ができるようにしました。

医療は日々進化し治療法も更新されています。常に新しい医療情報に接し、進取気鋭の精神で取り入れる



べきものは積極的に取り入れ、すべての方に最適な医療を届けられるよう精進したいと思えます。



多焦点眼内レンズ

遠くに焦点を合わせた眼内レンズに置き換えると、遠くは裸眼ではっきり見えますが、近くはぼやけて見えて老眼鏡が必要になります。逆に、近くに焦点を合わせた眼内レンズに置き換えると、手元は裸眼ではっきり見えますが、遠くはぼやけて見えて近視用の眼鏡が必要になります。いずれにしても、近くから遠くまですべての距離が裸眼ではっきり見えるようになることはなく、眼鏡を使わなくてもすむようになるわけではありません。

目をカメラに例えるとレンズに当たる部分を水晶体といますが、これが白く濁ってくる状態が白内障です。濁った水晶体を透明にすることで治療するのですが、その際、置き換えるのが眼内レンズです。これまで長きにわたり使われてきた眼内レンズは、単焦点レンズといって、焦点が合うのが1か所に限定されています。そのため、

そこで登場したのが、多焦点眼内レンズです。多焦点眼内レンズは、近方、遠方、中間距離のうち複数の箇所に焦点を合わせられるので、裸眼で見える範囲が広がり、眼鏡やコンタクトレンズを使わずに生活できるようになることが期待できます。眼鏡から解放される点でメリットがある多焦点眼内レンズですが、その見え方が単焦点眼内レンズより優れているわけではないとも言われています。焦点が合う1か所のみ見え方で比べたら、単焦点眼内レンズの方がクリアに見えると感じるかもしれません。多焦点眼内レンズは、1か所の見え方の質にこだわるのでは

なく、見える範囲を広げ、日常生活でなるべく眼鏡を使いたくない人に向いています。

また、多焦点眼内レンズを入れる白内障手術は、単焦点眼内レンズの場合に比べ、費用が高くなることにも注意が必要です。多焦点眼内レンズを使用する治療は「選定療養」に分類され、自身が選択して受ける追加的な医療サービスについては全額自己負担となります。この場合、多焦点眼内レンズの費用が別途かかることになります。当院は、多焦点眼内レンズの白内障手術を行う医療機関として届出をしていますので、検討される方はぜひご相談ください。

偽造防止技術を結晶させた「渋沢栄一」の新紙幣が発行された。電子マネーやクレディットカードで、電子決済へ移行している世界的な潮流の中で、新紙幣発行の真意は如何に。新通貨発行に伴う税金投入や、民間でも券売機やATMの改造に費用を国民は負担する。敗戦の翌年一九四六年、渋沢の孫・渋沢敬三大蔵大臣の時に、戦時国債が償還されず国債は紙屑となった。預金封鎖・新円切替十財産税課税も実施。銀行は長く閉鎖され預金は出金できず、新円印刷も間に合わず旧円に証紙を貼って流通した。その後、預金残高に高率の財産税が課税され、東条内閣の戦後処理の為に国民は全財産を政府に徴収された。新紙幣は、金本位制の裏付けがある兌換券ではない。財政ファイナンスで大量の国債を引き受け、株式ETF購入で株価操作をする中央銀行では管理通貨制度に揺らぎが生じる。二〇〇〇年に金1g1140円が今や十倍以上に。反比例するように日銀株は暴落し、日銀券の価値も減衰が懸念され、資産インフレは止まらない。(大槻靖)



MAIL
ファイル ⇨ **協同組合へ**
往復 ⇩ **協同組合から**

■上木さんの魅力 参加者満足いっぱい



上木紀介さん(総代)は、京都市左京区松ヶ崎の一般社団法人「つなぎ」(中郵よし子代表理事)の事業活動の一つを主宰しています。トーク、落語、歌、呼吸筋ストレッチ体操のエンターティナー。参加者は地元の人たち20人。例会は毎週火曜日午後開催。4月2日は近隣から6人が参加していました(写真)。

この日の上木さんのトークは余命のことについて。「十分生きてきたと思うと余裕ができる。そのことが大事」「100歳は珍しくなくなったが長寿を全うする人は多くない」「だから安らかに生きる。最後まで自分らしく生きるを目標にしたい」と話しました。落語は『寿限無』、歌は森山良子『今日の日はさようなら』。呼吸筋ストレッチ体操は「内臓を動かす筋肉の自律神経を鍛えるのがこの体操です」と説明して体操しました。

参加した女性は「この例会はふすーとした顔で入ってきて、笑顔で帰っていくんですよ」と機知にとんだ感想を言って、他の参加者の笑いを誘っていました。

■須賀常任理事が退任

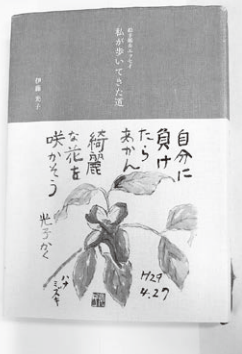
須賀修司常任理事が2023年度で退任しました。通常総代会で「前職の病院協同組合と全く違って戸惑いました。やっと分かりかけたところの退任でたいへん心苦しい。この医療生協は理事会が民主的に運営されています。これは誇っても良いと思います」と挨拶しました。

なお第1回理事会で顧問に委嘱されました。

■伊藤さんこの本からまた始まった

総代の伊藤光子さんが2021年に『絵手紙&エッセイ 私の歩いてきた道』という本を出されました。身近な花などの静物の絵と人生訓などの言葉からなる絵手紙が148枚。子どもの頃の父母の姿、定年まで勤めた会社の社長や同僚のことなど、思い出を語るようにつづったエッセイが95編。B5版、上製本、255ページになる本です。

伊藤さんは「書き出したら、つつと書けた」と言います。また、あとがきに「綺麗に咲いた花びらを一枚ずつ静かに落としていきたい」と。出版されるべくして出版された本のように思います。本のほうから伊藤さんに感謝しているかのようです。「毎日生懸命だった」伊藤さんのこれからがこの本からまた始まっています。



京都医療生協第77回通常総代会で採択された事業計画と質疑・討論、また第1回理事会の内容、そのあと開かれた大田亮本院副院長の講演の大意は、それぞれ別記の通りです。

豊岡病院(兵庫県豊岡市)に勤務していた時、教えていただいていた先生の言葉が心に残っています。「目の前の患者さんは必ず困って来ている。プロとして必ず治す。そういうことを心に持たないと医療は崩壊する。君は最終の砦なんだ」。培った技術でたくさんのお患者さんを救っていきなさいと思います。

専門としている硝子体手術のお話をします。硝子体は眼球の8割を占めコラーゲンで

大田 亮 本院副院長



できています。コラーゲンが網膜をひっぱったり破ったりする。感染もある。それが病気。例えばティッシュペーパーにガムがくっついていたりします。そのガムをティッシュペーパーを破らないように除去する。手術のイメージです。白目に小さい穴をあけ、器具を入れる繊細で難しい手術です。最近は30分から70分ぐらいでできるようになりま

心に残る「最終の砦」硝子体手術について 良好な視力に寄与したい

した。病気は主に、網膜が剥がれたり皺ができたり破れたりして視力が1.0以下になる網膜剥離、網膜の表面に膜ができてゆがんだり視野が欠けたりする黄斑変性、くぼんでいる網膜の中心窩に加齢にともなって穴があく黄斑円孔、があります。

硝子体手術の応用に白内障の手術があります。水晶体に入れた眼内レンズは支持部を囊に固定しています。これが

講演(大意)

切れたりするとレンズが下に落ちてピントが合わなくなる。新しいレンズに取り替える手術をすることになります。大学病院に紹介していたのを中野眼科でできるようにしました。

飛蚊症で困っている方も多いと思います。これまでは経過観察の対処だったが、少しずつ手術やレーザーによる治療になっていきます。展望が見えてきました。相談してください。

新しい機械を導入したことで中野眼科はいっそう安全に良い医療を提供できるようになりました。患者さんのより良い視力に寄与したいと思います。

朝ドラファンです。そのドラマで今、よく登場するのが「はて？」というせりふ。主人公の女性法律家は物事がどうも腑に落ちない時にこう言って首をかしげます。ドラマのキーワードです。

この「はて？」のような思考、



真山 仁 著

『疑う力』

での講座内容を再構成したものの、情報氾濫の現代、フェイクニュースや陰謀論が潜みます。「疑うというのは、否定することではありません。違和感があれば事実を検証しようとする姿勢」と著者。まことしやかに流される情報を鵜呑みにせず、立ち止まって考えること

を訴えます。「疑う力」を養うテーマとして、分断された民主主義、脱炭素社会、平和と安全保障などを取り上げ、作家らしくアガサ・クリスティーのミステリーを通して「正しい」を問う実践も。「ウソがまかり通る社会に未来は有りません」。文春新書。(松本忠之)

これが本書のいう「疑う力」でしょうか。著者は小説「ハゲタカ」などで知られる社会派作家。著作などを通じ「正しいを疑う」は信条の一つになっているといいます。

本書は大学のシティキャンパス



通常総代会

各種日帰り手術の理解を広げる

発言で総代さんの存在をしっかりと

通常総代会(写真)で採択された「2024年度事業計画」は、医療活動と経営の具体化で①硝子体手術②白内障手術での多焦点眼内レンズの取り扱い、に患者さんへの理解を一層進めることを重視したものとされています。コンタクトレンズ供給事業では広報活動強化を打ち出しています。

質疑・討論では、稲村守総代が「一般の方にこの立派な活動は見えていのだろうか」と発言し、赤染益輝総代が「『患者さん第一』をどう伝えているのか」「中長期計画を作って展望を持って事業を練ってほしい」などを質問しました。清水専務理事らが「安心安全の活動が一番。ドクターが日々心がけている」「医療生協がどういう方向に行くのか。共通の目標がある」と回答しました。



総代会運営に関する議事運営委員は常任理事5人、資格審査委員は毛利雅彦理事、早田ちさ総代、書記は山内博貴職員でした。



発言する稲村総代(写真上)と赤染総代(写真下)

第1回理事会

大田副理事長就任

総代会で選任された理事10人、監事3人、また続けて行われた第1回理事会で互選された代表理事らは以下の通り(敬称略)。副理事長の大田亮、常任理事の村田四郎の2氏は新任。

- ◆理事長=宮本和明(代表理事)(再任。以下「再」)
- ◆副理事長=大田亮(新任。以下「新」)
- ◆専務理事=清水泰治(代表理事)(再)
- ◆常務理事=川久保雄二郎(再)
- ◆常任理事=松本忠之(再)、村田四郎(新)
- ◆理事=大槻靖(再)、荻野宏子(再)、坂博子(再)、毛利雅彦(再)
- ◆監事=安部敏弘(再)、大山治寿(再)、中川郁子(再)